

令和4年度

病虫害発生予察情報

第 10 号

注意報第4号

北海道病虫害防除所 令和4年(2022年)7月15日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメが多発 高温経過で加害が活発化の恐れ！

基幹防除後もモニタリングを励行し適切に追加防除を実施しよう

アカヒゲホソミドリカスミカメは、斑点米発生の主要原因となるカメムシです。主に水稻の出穂以降に畦畔や雑草地などから第2回成虫が水田内に侵入します。その後、水田内では第2回成虫や第3回幼虫・成虫が籾を吸汁加害して斑点米を発生させます。

本年は、予察灯及び予察田畦畔すくい取りにおける成虫の発生は、長沼町、比布町、北斗市いずれの地点においても平年より多く推移しています。

水稻の生育は平年並に推移していますが、7月の高温経過により平年よりやや早く出穂期に到達する地域も現れると推測されます。

また、札幌管区气象台発表の7月14日付け1か月予報によると、7月中旬以降の気温は全道的に高い傾向で、降水量はほぼ平年並と予報されています。今後、水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧されます。

以上のことから、基幹防除を適期に実施することは、例年に増して重要であると考えられます。また、基幹防除後も水田内のすくい取りやフェロモントラップによるモニタリングを励行し、適切な茎葉散布による追加防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯における成虫誘殺数は、長沼町、比布町及び北斗市で平年より多く推移している(表1)。
- (2) 予察田の畦畔すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町、比布町及び北斗市で平年より多く推移している(表2)。
- (3) 予察田内に設置したフェロモントラップ捕獲数は、長沼町、比布町及び北斗市で平年より多く推移しており、籾を加害する第2回成虫の水田への侵入も確認されている(表3)。
- (4) 一般田における6月6半旬の巡回調査では、畦畔すくい取りにおいて全74地点中、空知、石狩、日高、上川、留萌地方の計20地点で捕獲が認められており、一部地域では多数の捕獲も認められている。
- (5) 7月14日付け札幌管区气象台発表の1か月予報によると、7月中旬以降の気温は全道的に高い傾向で降水量はほぼ平年並と予報されている。
- (6) そのため、今後水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧される。

4. 防除対策

- (1) 基幹防除に引き続き、以下のとおり発生モニタリングを行い、追加防除の要否を判断する。
 - ①基幹防除に茎葉散布を実施した場合には、2回目散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行う。20回振りあたりの捕獲頭数が「きたくりん」、「吟風」では3頭、「ゆめぴりか」、「きらら397」では2頭、「ななつぼし」、「ほしのゆめ」では1頭に達した場合に追加防除を実施する。

その後も、上記水準を下回るまで、7～10日間隔で同様の調査とその結果に基づいた追加防除を継続する。

- ②上記基準は、出穂7日後以降7日間ごとのフェロモントラップによる合計捕獲虫数（同一区域内に設置した複数トラップによる平均捕獲頭数）では、「きらら397」は2.2頭、「ほしのゆめ」は1.2頭に相当する。
- ③ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤Fを使用し、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布とした場合も、散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行い、上記に準じて追加防除を実施する。
- ④基幹防除に水面施用を実施した場合には、出穂3週目にすくい取り調査を実施し、上記に準じて追加防除を実施する。

(2) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

表1 予察灯による成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月4半旬	1	6.1	5	1.3	2	1.6
5半旬	4	5.3	3	0.9	2	0.9
6半旬	41	5.4	4	2.3	9	4.0
7月1半旬	36	5.3	0	1.6	183	8.7
2半旬	106	20.3	3	1.2	192	10.6
平年数	10		10		10	

表2 畦畔すくい取りによる捕獲頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月4半旬	42.5	5.0	25.0	2.3	2.5	1.3
5半旬	5.0	1.7	10.0	0.6	0	0.8
6半旬	30.0	2.8	0	2.6	5.0	1.3
7月1半旬	40.0	2.0	0	0.5	7.5	1.3
2半旬	37.5	2.0	0	0.6	0	0.3
平年数	10		10		10	

表3 水田フェロモントラップにおける誘殺頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月4半旬	16	0.9	2	2.5	0	6.1
5半旬	0	1.4	0	1.6	3	5.2
6半旬	0	1.6	0	2.6	4	6.4
7月1半旬	0	0.9	1	0.9	21	4.4
2半旬	7	1.0	1	1.4	9	3.6
平年数	10		10		10	

付記

北海道地方 1か月予報
(7月16日から8月15日までの天候見通し)

令和4年7月14日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は日本海側と太平洋側で高く、オホーツク海側では平年並か高いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、北海道日本海側・太平洋側で高い確率が50%、オホーツク海側で平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、北海道日本海側・太平洋側で平年並または高い確率ともに40%、オホーツク海側で平年並の確率が50%です。2週目は、平年並の確率が50%です。3~4週目は、高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】	北海道地方日本海側	20	30	50
	北海道地方オホーツク海側	20	40	40
	北海道地方太平洋側	20	30	50
【降水量】	北海道地方	30	30	40
【日照時間】	北海道地方	30	40	30

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目	北海道地方日本海側	20	40	40
	北海道地方オホーツク海側	20	50	30
	北海道地方太平洋側	20	40	40
2週目	北海道地方	20	50	30
3~4週目	北海道地方	20	30	50

■低い □平年並 ■高い